



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方にお送りしています

第 20 号(2011 年 2 月 8 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

寒さの中にも、かすかに春の気配が感じられるようになりました。法学部だより第 20 号をお届けします。

目次

- 就職活動体験記（第 2 回）
- パリ便り ～ソルボンヌからの風～（第 8 回）
- 法学部からのお知らせ

-
- 就職活動体験記（第 2 回）

「私の就職活動について」

今回、貴重な機会を頂いたので、自分の就職活動（いわゆるシューカツ）について、メンタル面を中心に、振り返ってみようと思います。3 回生の 10 月頃から説明会に参加し始め、1 月下旬から選考が始まり、4 月 30 日に内定をいただくことができました。この半年の間、特に、志望度が高かった企業 2 社の最終面接で落された 4 月中は、何度か心が折れそうになりました。それでも、私は、悔し泣きしながら鉄板焼きを食べ、友人や彼女に励ましてもらって、次の戦いに向けて心を奮い立たせました。

シューカツを始めたばかりの頃は、「あなたの強みは？自己 PR は？」という質問への回答に対して、芳しい反応が得られないと、あたかも自分自身を否定されたかのように感じました。しかし、戦い続けるために、私は、途中から、自分自身が否定されたのではなく、「自分とは合わなかっただけ」と思って（言い聞かせて）、気持ちの切り替えができるようになりました。最終的には（行き過ぎかもしれませんが）、「オレを採用しないと後悔するぜ」というスタンスで面接に臨んでいました。

シューカツ序盤戦は、チャレンジしては戦術を練り直す、ということは何度も繰り返す必要があります。しかし、試行錯誤を重ねるうちに、次第に、確固たる「自分」というものができてきます。私自身は、これでダメなら仕方ない、そう思えるような「自分」に、自分を再定義することができたと思います。

シューカツについては色々な場所で色々な情報が飛び交います。シューカツ本もたくさんありますが、「正解」なんてものはありません（個人的には、別に SPI（適性検査）対策だってやらなくてもいいと思います）。正解志向に陥って情報を漁るのではなく、手ざわり感のある情報に基づいて、自分で決めた方針を信じて貫く、という姿勢を大切にしたいと思います。

お金がなくて漫画喫茶で過ごした孤独な東京の夜も、面接途中でお腹が痛くなったことも、選考の辞退を伝えるにいったらお兄さん達に囲まれたことも、今ではすべていい思い出です。皆さんも、頑張ってください。

法学部 4 回生 青柳洋仁

-
- パリ便り ～ソルボンヌからの風～（第 8 回）

フランスの法学教育・その 2——講義風景

フランスの法学部の授業が講義と演習から成ることは前回述べましたが、今回はその中の講義についてレポートしてみたいと思います。

私が聴講している「憲法総論」には、毎週 600 人近くの学生が出席しています。講義はもちろん大講義室で行われますが、毎回最前列まで席が埋まるほど学生で溢れており、冬でも教室は熱気に包まれています。また、法学部の 7 割は女子学生なので、教室内はとても華やかです。時間が来るとファイルを携えた教授が登壇し、おもむろに全体を見渡した後、「Bien! (はじめます!）」と一声かけたところでいよいよ講義が始まります。最初の数分で前回の内容の確認を行った後、雑談もなく早速その日の授業に入ります。

講義スタイルは、現在の日本の大学のそれとは相当異なります。何よりレジュメ配布や板書が一切ありません。そこで、学生は授業では最初から最後まで、教授の話す内容を書きとめなければなりません。ノートに筆記している学生もいますが、半数以上の学生はパソコンを持ち込んでいます。このため授業中は、教授の話し声とともに、数百人分のキーボード音がけたたましく教室内に響き渡ります。このような口述筆記の講義スタイルはフランス法学教育の伝統で、憲法に限らずすべての講義科目で行われています。これには、教授の行論から法律論のみならず、正しい表現や文章の書き方を習得するという教育目的があり、学生には講義においてこの筆記能力を磨くことが求められています。それゆえ、それが不得手で成績が芳しくない学生は、2 年、3 年進学時に大学を去って行くこととなります (2 年進学時に約 3 割の学生が退学します)。

もちろん、講義の途中で難しい表現が出てきたり、大切なことを聞き逃すこともあります。その時は隣の友人に尋ねたり、前列の人のディスプレイをのぞき込んだりしてお互い助け合っているようです。このあたりは、フランス特有の「連帯」の精神というのでしょうか。とはいえ、以前に取り上げたバカロレア (大学入学資格試験) で哲学をはじめとする論文試験を経験しているためか、多くの学生は筆記することに特段の抵抗を感じていないようです。こうして、毎回 10~15 枚分のびっしり詰まったノートが出来上がります。

もっとも、学生が口述筆記をせざるを得ないのは、教授法と大いに関係があります。授業は、担当教員が体系化された自らの講義ノートを半ば読み上げる形で進められます。「第 1 章〇〇」「第 1 節××」という章や見出しまで読み上げられ、この章立てに基づいて学生は口述筆記を行います。このため、学期末には、当該科目に関する一つの体系書が完成します。こうした講義スタイルは、かつて日本の帝国大学でも行われていたようですが、現在同じことを実践すれば明らかに時代錯誤の烙印を押されてしまうでしょう。しかし、フランスではこの方法が今日にまで受け継がれており、「法国」の伝統を垣間見ることができます。

井上 武史 准教授

○ 法学部からのお知らせ

☆岡山大学法学部・台湾高雄大学法学院 第 3 回日台学術交流セミナーを開催します。

日時：2 月 10 日 (木) 14:00~17:00

場所：法学部会議室

演題：日本・台湾における最近の刑事法事情

台湾高雄大学法学院より法学院長 張 麗卿先生を始め 4 名の先生方をお迎えし、学術交流セミナーを開催します。

☆法教育講演会を開催します。(岡山法教育研究会主催)

日時：3 月 4 日 (金) 16:30~18:30

場所：文化科学系総合研究棟 2 階 共同研究室

演題：法教育のこれまでとこれから 一教科での指導を中心として一

(講演の後、質疑応答・意見交換を行います。)

講演者：江口勇治教授 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

☆謝恩会のお知らせ

卒業式 (3 月 25 日) の夜に謝恩会実行委員会による謝恩会が開催されます。

詳細は法学部の掲示板で確認してください。

.....

- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
- ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>
- ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
- ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://court.law.okayama-u.ac.jp/mail/register.html>
- ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho@law.okayama-u.ac.jp まで。